

12. 輸出入と為替レート

2004年12月13日

第11章 貿易、国際収支と為替レート

1. 貿易

比較優位の原理

規模の経済と貿易

輸出入構造の変化

2. 国際収支

国際収支とは

国際収支の動向と政策対応

経常収支の決定要因

3. 為替レートと国際通貨体制

固定相場制から変動相場制へ

為替レートの決定要因

新たな制度の模索

4. 保護主義と自由貿易体制

輸出入構造の変化

<輸出>

・品目別

1960年ごろまで ()

60年代から70年代にかけて ()を中心とする金属、
()()などの電気機械

73年の石油危機後 ()をはじめとする加工組み立て型商品

近年 () ()を含む事務用機器

・地域別

()のシェアが低下し、()のシェアが拡大

< 輸入 >

・品目別

80年代半ばまで () () や () などの原材料、() を中心とする鉱物性燃料の割合が高く、工業生産のシェアが低い

80年代半ば以降 () のシェアが拡大

理由

・地域別

() () のシェアが低下し、() のシェアが拡大

国際収支

ある国が外国と行うあらゆる経済取引を記録したもの

() 収支

・() 収支

輸出

輸入

・() 収支 旅行、特許料

・所得収支 海外に投資して儲かったお金の受け払い

・経常移転収支 ODA、外国人労働者の送金など

() 収支

外貨準備増減

誤差脱漏

為替レートの決定要因

為替レートは国の経済力を反映する
景気がよければ円高

()

長期における為替レートの決定要因

ものの値段の比較で決まる。物価が安いほど円高

()

金融資産の金利や、為替レートの将来予想で決まる。

金利上昇 円高

経常収支の黒字 円高

「効率市場仮説」

為替市場が効率的で市場裁定が早ければ、為替レートを決定する要因は過去の実績値と予測不可能なショックのみ。

